# 夢窓幼稚園通信第35号

2020年　9月　30日

おかげさまで、雨のために延期した3回目の「あきまつり」も昨日ゆたかに行うことができました。
それぞれの三日間ありがとうございました。
同じテーマ、表現内容、演目でも、三回とも趣が異り、そしてまた一回毎におまつりが変容していくのが面白いと思いました。
「あきまつり」は成長と収穫感謝のおまつりですが、大きな意味では、11月半ばくらいまでの長い収穫感謝の期間のはじまりでもあるのでしょう。
これから深まってゆく秋に様々な絵りが待ってくれていると思うとわくわくですね。

先日、年長の女の子たちが、おまつりの準備をしている横で演目で使われている歌を♪"……うたごえあわせてちからをあわせてともだちさそってしゃっぱっだずんちゃかずんちゃか〜〜〜〜……"と、先生が弾く伴奏まで声で付けながらたのしそうにきれいな声でうたっていました。
その子たちの小さかった頃を思い出しながら、「しっかり大きくなったなあ!」と静かに感激したり、この春に新しい青バッチになってからもいろいろなドラマを通して自分をゆたかにふくらませてきた様子を思い起こして、秋の実りのときを重ね合わせ、幸せ気分をいただきました。
もう「一人前」に近い青バッチだなと思いました。
…もちろん一人前になってからも人生というのは、いろいろとあるのでしょうが…
あきまつりの表現を見るにつけ、黄色バッチさんたちも・赤バッチさんたちも、それぞれのバッチとして磨きがかかってきたな!と感じました。
ピンクバッチさんも愛らしくありながら、なかなか大きな存在感です。

種が芽を出し葉をつけ、花を咲かせ実を結ぶように……
3歳の赤バッチさんは赤バッチとして実を結び、また4歳の黄色バッチに生まれ変わり黄色の実を結び、また次に青バッチ

として生まれ 様々なメタモルフォーゼを遂げながら 結実していくのでしょう。
そのプロセス ひとつひとつが 生きる輝きであるなら、一人前になるのも素敵ですが、一人前になる前の まだまだ半人前の時というのは、芽を出したり 葉をいっぱい繁らしたり・・・と、素敵なドラマが展開する意味深い時期ということになります。
未熟である時、ひたすら 今の時に一所懸命の 無垢の半人前の時こそ大切で 生きる醍醐味なのかもしれません。

むそうで食事の時に子どもたちが唱える「食前の祈り」は、ご存知のように 次の通りです。

暗い土の 中から　　種が 芽を 出します
風の 力に ふれて　　葉を ひろげます
そして 日の 光を　うけて　　ゆたかな 実を　結びます

普段は唱えていない次のような言葉が、祈りの後半に続きます。

そのように　心の種は　　からだの 中で 芽を出し
そのように　魂の力は　　世の中に向けて　ひろがり
そのように　　私たちは　　精神の 光の 中で
ゆたかな　　実を　結ぶのです

外なる自然の生長は 神秘的で讃美に値しますが、毎年それぞれの年齢の一回限りのドラマを 半人前として頼りなげに、しかし気がついたら頼もしく成就しながら 人生の歩みをらせんを描くようにけなげに、よろこび いっぱい進めている私たちは、一人ずつ すごい存在なのだと、あらためて思いました。

予感と憧れに誘われながら みずからの深みへ降りていく。
おのれを省みながら
自分を 夏の日の贈り物と感じる。
今　秋の季節に　萌える芽となり
魂の熱い力となって　生きる。

（R.5『魂のこよみ』第27週　10月(1)）

いよいよ明日、満月とともに 10月を迎えます。
それぞれの かけがえのない私たちが、子どもたちも大人たちも、深まっていく秋を　それぞれらしく 元気に過していくことができますように！

園長 外光泰雄